平成２９年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第４号
（７月の発生予想）

平成２９年　６月２９日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【水稲】

葉いもち	量：やや少ない 程度：少発生 時期：遅い	① 現在まで発病は確認されておらず、初発生は遅れている。（－） ② BLASTAMいもち病感染好適条件は６月26日に広域的に出現したが、例年に比べて出現頻度が低い。（－） ③ コシヒカリＢＬの作付けが多く、発病進展には抑制的に働く。（－） ④ 向こう１か月の降水量は平年並か多い、日照時間は平年並か少ないと予想されている。（±～＋）
紋枯病	量：並 程度：少発生 時期：並	① 前年の発生量は平年比やや少なく、越冬菌核量は平年比やや少ないと推定される。（－） ② 現在、発病は確認されていない。（±） ③ 向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か多いと予想されている。（＋）
稲こうじ病	感染量：平年並	① 前年の発生量は平年並で、伝染源量は平年並と推定される。（±） ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
	【防除上の留意事項】 ・前年多発生したほ場では、薬剤防除を考慮する。	
ニカメイチュウ	量：並 程度：少発生 時期：やや早い	① ６月下旬の被害株率は平年並に少ない。（±） ② 越冬世代の発蛾盛期は５月第６半旬頃で平年比やや早く、トラップ誘殺数は全般に平年並～やや少ない。（±～－） ③ 向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か多いと予想されている。（＋～±）
セジロウンカ	量：並	① ６月２８日現在、未確認で発生量は平年並。（±） ② 梅雨明けまでは飛来の可能性がある。（±）

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【水稲】（つづき）

ツマグロヨコバイ	量：並 程度：少発生	① 発生量は平年並に少ない。（±） ② 向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
斑点米カメムシ類	量：並 時期：並～やや遅い	① ６月下旬の畦畔すくい取り調査では、アカスジカスミカメの虫数は平年並だが、確認地点率は平年比やや高い。（＋） ② オオトゲシラホシカメムシとアカヒゲホソミドリカスミカメの発生量は虫数、確認地点率とも平年並。（±） ③ 水稲の出穂期は平年並～やや遅いと予想される。 ④ 向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
イネアオムシ （フタオビコヤガ）	量：やや少ない 程度：少発生	① ６月下旬の幼虫発生量は平年比やや少ない。（－） ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
コブノメイガ	量：並	① ６月25日現在、佐渡市鷲崎のフェロモントラップでは確認されていない。（±）
コバネイナゴ	量：並 程度：少発生	① ６月下旬の発生量は平年並。（±） ② 向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）

【大豆】

アブラムシ類 （褐斑粒）	量：やや少ない 程度：少発生	① ６月下旬のアブラムシ類の発生量は平年比やや少なく、ジャガイモヒゲナガアブラムシの発生は確認されていない。（－） ② 向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か多いと予想されている。（±）

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【なし】

黒斑病	量：やや少ない～並 程度：少発生（発病葉率１～５%）	① ６月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－） ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
黒星病	量：並～やや多い 程度：少発生（発病葉率１～５%）	① ６月下旬の発生量は平年並。（±） ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
	【防除上の留意事項】 ① 発病葉、発病果は見つけ次第除去し、園外に持ち出し土中深く埋める等適切に処分する。 ② 防除効果を高めるため、薬剤散布は発病部位を除去した後に行う。 ③ 防除薬剤が樹全体にムラ無くかかるよう新梢管理に留意する。 また、園地周縁部などの薬液のかかりにくい場所は補正散布を行う。	
セイヨウナシ 褐色斑点病	量：並～やや多い 程度：少発生（発病葉率１～５%）	① ６月下旬の発生量は平年並。（±） ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
	【防除上の留意事項】 ① 発病葉、発病果及び発病枝は二次伝染源となるので、見つけ次第剪除し、ほ場外で適切に処分する。 ② 梅雨期間の降雨は感染に好適であるため、天気予報に留意し防除間隔が開きすぎないよう計画的に防除を行う。	
ナシヒメシンクイ	量：やや多い 程度：少発生 時期：並 （第１世代成虫の発蛾盛期は６月第６半旬～７月第１半旬頃）	① ６月下旬のももでの新梢被害は、平年比やや多い。（＋） ② フェロモントラップ誘殺数は概ね平年並である。（±） ③ 向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） ④ 防除上の留意事項は「もも」の項を参照。
ハマキムシ類	量：並～やや多い 程度：少発生（被害葉率１～15%） 時期：並（リンゴコカクモンハマキ第１世代の発蛾盛期は７月第４半旬頃）	① ６月下旬の発生量(被害葉)は平年並。（±） ② リンゴコカクモンハマキ越冬世代のフェロモントラップ誘殺盛期は平年並で、誘殺数は新潟地域で平年並、中越地域で平年比多かった。（±～＋） ③ 向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【なし】（つづき）

アブラムシ類	量：やや少ない～少ない 程度：少発生（寄生葉率１～５%）	① ６月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－） ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～－）
ハダニ類	量：並 程度：少発生（寄生葉率１～５%）	① ６月下旬の発生量は平年並。（±） ② 向こう１か月の気温は平年比高く（＋）、降水量は平年並か多いと予想されている（＋～±）。
コナカイガラムシ類	量：多い	① ６月下旬に各地でコナカイガラムシ類の発生が認められた。（＋） ② 向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 ① 樹皮の隙間、枝の切り口、新梢の付け根等をよく観察し、卵のうや虫の寄生が認められた場合は、ブラシ等でこすり落とす。 ② フェロモントラップの誘殺状況から推定されるフジコナカイガラムシ第１世代幼虫の防除時期は、６月第５半旬～７月第２半旬である。 ③ 有効積算温度から推定されるクワコナカイガラムシ第１世代幼虫の重点防除時期は、７月第４半旬～第５半旬である。	
果樹カメムシ類	量：並	① ６月下旬現在、被害果は未確認。（±） ② 予察灯での６月の誘殺数は概ね平年並。（±） ③ 向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）

【もも】

せん孔細菌病	量：やや多い～多い 程度：中発生 （発病葉率11～30%）	① ６月下旬の葉の発病は平年比やや多い。（＋） ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
	【防除上の留意事項】 ① 収穫期が近づき薬剤防除が困難となることから、発病が多い園地では次の②、③の耕種的防除を実施し、病原菌のまん延防止に努める。 ② ツボ状発病など局所的に発病している部位は、枝を含めて可能な限り除去し、園外に持ち出して適切に処分する。 ③ 風雨で感染が拡大するため、防風網の設置・補修等、防風対策を行う。	

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【もも】つづき

灰星病	量：並～やや多い 程度：少発生 （発病果率１～５%）	① ６月下旬に果実の発病が中越地域の一部で認められた。（＋） ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
	【防除上の留意事項】 ① 摘果果実及び腐敗果実は集めて処分する。 ② 重点防除期は収穫20日前頃～収穫期である。 ③ 農薬の使用時期（収穫前日数）に留意し、薬剤散布する。	
モモハモグリガ	量：やや多い 程度：少発生（被害葉率１～15%） 時期：並 （第２世代成虫の発蛾最盛期は６月第６半旬頃）	① ６月下旬の被害葉の発生は平年比やや多い。（＋） ② フェロモントラップへの誘殺数は平年並～やや少ない。（±～－） ③ 向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 ① 薬剤散布適期は誘殺最盛期の約７日後である。	
ナシヒメシンクイ	量：やや多い 時期：並 （第１世代成虫の発蛾盛期は６月第６半旬～７月第１半旬頃）	① ６月下旬の新梢被害は平年比やや多い。（＋） ② フェロモントラップの誘殺状況は概ね平年並である。（±） ③ 向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 ① 園内を見回り、被害新梢（心折れ）や被害果実は見つけしだい剪除し適切に処分する。 ② 第２世代幼虫の防除適期は誘殺盛期の７～９日後である。	
果樹カメムシ類	量：並 程度：少発生 （被害果率１～２%）	① ６月下旬に中越地域で稀に被害果を認めた。（±～＋） ② 予察灯での誘殺数は概ね平年並。（±） ③ 向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【ぶどう】

晩腐病	量：並～やや多い 程度：少発生（発病果房率１～10%） 時期：並	① ６月下旬の発生は未確認。（±） ② 胞子飛散開始時期（４月1日起算1,400日度）は、６月第６半旬で平年並と推定される。 ③ 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
べと病	量：並～やや多い 程度：少発生（発病葉率１～10%）	① ６月下旬の発生は未確認。（±） ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
褐斑病	量：やや多い 程度：少発生（発病葉率１～10%）	① 前年の発生量は平年比やや多く、越冬伝染源量は平年比やや多いと推察される。（＋） ② ６月下旬の発生は未確認。（±） ③ 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
フタテンヒメヨコバイ	量：並 程度：少発生（被害葉率１～25%）	① ６月下旬の発生は未確認で、発生量は平年並。（±） ② 向こう１か月の気温は平年比高く（＋）、降水量は平年並か多い（±～－）と予想されている。

【かき】

円星落葉病	感染量：並 感染時期：並	① 前年の発生量は平年並。（±） ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
チャノキイロアザミウマ	量：並	① ６月下旬の被害果発生は未確認。（±） ② 向こう１か月の気温は平年比高く（＋）、降水量は平年並か多い（±～－）と予想されている。
カキクダアザミウマ	量：並	① ６月下旬の被害葉発生は未確認。（±） ② 向こう１か月の気温は平年比高く（＋）、降水量は平年並か多い（±～－）と予想されている。

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【かき】つづき

果樹カメムシ類	量：並	① 本年のスギ毬果等（夏季の主要餌）の着生量は平年並と推察される。（±） ② ５月第１半旬から６月第５半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシの予察灯誘殺数は概ね平年並。（±） ③ ６月末現在、被害果は未確認。（±） ④ 向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）

【すいか】

つる枯病	量：やや多い～多い 程度：少発生（発病葉率１～15%）	① ６月下旬の発生量は平年比やや多い。（＋） ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
炭疽病	量：やや少ない 程度：少発生（発病果率１～５%）	① ６月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－） ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
アブラムシ類	量：並 程度：少発生（寄生葉率１～25%）	① ６月下旬の発生量は平年並。（±） ② 向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
ハダニ類	量：並 程度：少発生（寄生葉率１～25%）	① ６月下旬の発生量は平年並。（±） ② 向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
オオタバコガ	量：並 程度：少発生	① ６月下旬の被害量は平年比やや少ない～並。（－～±） ② フェロモントラップ総誘殺数は平年並～やや多い。（±～＋） ③ 向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【秋冬ねぎ】

べと病	量：やや少ない 程度：少発生（発病株率１～10%）	① ６月下旬の発生は未確認で、発生量は平年比やや少ない。（－） ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
さび病	量：やや少ない 程度：少発生（発病度１～５）	① ６月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－） ② 向こう１か月の気温は平年比高く（－）、降水量は平年並か多いと予想されている（±～＋）。
黒斑病	量：並 程度：少発生（発病度１～20）	① ６月下旬の発生は未確認で、発生量は平年並。（±） ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
軟腐病	量：並 程度：少発生（発病株率１～５%）	① ６月下旬の発生は未確認で、発生量は平年並。（±） ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
ネギハモグリバエ	量：並 程度：少発生（被害度1～10）	① ６月下旬の発生量は平年並。（±） ② 向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
ネギアザミウマ	量：やや多い 程度：多発生（被害度21～30）	① ６月下旬の発生量は平年比やや多く、甚発生ほ場も認められた。（＋） ② 向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
シロイチモジヨトウ	量：やや多い 程度：少発生（被害株率１～10%）	① フェロモントラップ誘殺数は平年比多い。（＋） ② ６月下旬の被害は未確認。（－） ③ 向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【ユリ(球根養成)】

葉枯病	量：並	① ６月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう１か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～＋)
アブラムシ類	量：並	① ６月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か多いと予想されている。(±)

【その他】

【アブラナ科野菜】 コナガ	量： 平坦部：やや少ない 山間部：並～やや多い	① フェロモントラップへの総誘殺数は平坦部では平年比やや少なく（－)、山間部では６月中旬に誘殺数の急増が見られ、平年並～やや多かった。(±～－) ② 向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か多いと予想されている。(±～＋)
【一般樹木】 アメリカシロヒトリ	量：やや少ない 時期：やや早い 第１世代幼虫による被害増加期は７月第１半旬頃	① 越冬世代成虫の発蛾最盛期は５月第５～第６半旬で平年比やや早く、発生量は平年比やや少なかった。(－) ② 向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)

～　防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照のこと　～

注１：「予報内容」の発生量は、平年対比の予想発生量（少、やや少、並、やや多、多で表記）。また、「発生程度」は最も頻度が高いと予想される発生量の程度で、発生予察事業の調査実施基準等に基づく階級（無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生で表記）を示す。

注２：「予報の根拠」の（＋）は発生量を増加させる要因、（－）は発生量を減少させる要因を示す。

～　農薬は適正に使用しましょう　～

【新潟県農薬危被害防止運動実施期間：６月１日～８月31日】

○ 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
○ 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
○ 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
○ 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
○ 水田で湛水して農薬を散布する場合は、７日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

新潟県病害虫防除所業務課
電　話：0258-35-0867
ＦＡＸ：0258-35-7445
ＵＲＬ：www.pref.niigata.lg.jp/bojo

【参考】北陸地方　１か月予報（７月　１日から７月３０日までの天候見通し）

（新潟地方気象台：平成２９年６月２９日発表）

＜ 予想される向こう１か月の天候 ＞

向こう１か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう１か月の平均気温は、高い確率５０％です。降水量は、平年並または多い確率ともに４０％です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに４０％です。

週別の気温は、１週目は、高い確率６０％です。２週目は、高い確率６０％です。

＜向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気　　温	１０	４０	５０
降 水 量	２０	４０	４０
日照時間	４０	４０	２０

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

	低い	平年並	高い
１週目（７月　１日～７月　７日）	１０	３０	６０
２週目（７月　８日～７月１４日）	１０	３０	６０
３～４週目（７月１５日～７月２８日）	３０	４０	３０